ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
Vol.17
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640
ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Ｅメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

北海道支部	〒060-0807 札幌市北区北７条西４－１－２（札幌丸増ビル４Ｆ）	電話(011)738－0641	ＦＡＸ(011)738－0640
東北支部	〒984-0816 仙台市若林区河原町１－３－24（大和第２ビル１Ｆ）	電話(022)716－6701	ＦＡＸ(022)716－6710
関東支部	〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋ＳＫビル４Ｆ）	電話(03)3639－1571	ＦＡＸ(03)3639－3980
北信越支部	〒950-0951 新潟市島屋野２－11－16（吉本工業ビル１Ｆ）	電話(025)282－1031	ＦＡＸ(025)284－7810
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄３－28－21（愛知建設業会館６Ｆ）	電話(052)249－7661	ＦＡＸ(052)242－6280
近畿支部	〒530-0012 大阪市北区芝田１－４－14（芝田町ビル８Ｆ）	電話(06)4802－3071	ＦＡＸ(06)4802－3070
中国支部	〒730-0017 広島市中区鉄砲町５－21（協栄生命広島鉄砲町ビル５Ｆ）	電話(082)511－2051	ＦＡＸ(082)227－2720
四国支部	〒760-0065 高松市観光通２－２－15（ダイヤビル本館７Ｆ）	電話(087)812－0131	ＦＡＸ(087)812－0130
九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前４－10－13（奥村第３ビル４Ｆ）	電話(092)472－7000	ＦＡＸ(092)472－7100

事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる　心豊かな国創り

私たち全国仮設安全事業協同組合（ＡＣＣＥＳＳ）は発足して２回目の新年を迎えることができました。公共投資の削減や民需低迷で、建設業界は未曾有の不況下にあえいでいますが、組合員一同、倍旧の結束を果たし、仮設の安全確保に努めていく所存です。2002年のＡＣＣＥＳＳ新聞１月号は作家の田村喜子氏をお招きし、小野辰雄理事長と仮設安全について対談していただきました。

2002年新春対談

いいものをつくるための基礎が足場ですね

「人や物の落ちない」足場普及をめざします

全国仮設安全事業協同組合
小野　辰雄理事長

作家
田村　喜子さん

小野　新年明けましておめでとうございます。田村先生には昨年12月4日に私どもＡＣＣＥＳＳが横浜で開催しました「第1回全国仮設安全大会」でコーディネーターを務めていただき、ありがとうございました。また席上、仮設の応援団であることを宣言していただき感激しました。建設業界の事情に明るい田村先生のお言葉に意を強くした次第です。改めてお礼を申し上げます。さて、本日は仮設にまつわる安全の在り方について、田村先生のお考えをお聞きするとともに、提言をいただきたいと考えております。よろしくお願いします。では、先の全国大会での感想からお聞かせください。

田村　取材等で土木の現場を随分多く訪問し、安全ベルトも着用したのですが、「安全ベルトを着けたのだから、もう安心」と思い込んでおりました。しかし、仮設製品の展示会場で、安全ベルトを着けた作業員のダミー人形が墜落したときの衝撃を拝見して（下の写真参照）、人体の損傷という点では安全ベルトも万全ではないことがわかりました。確かに人命保護にはなるのでしょうが、ベルトが災いして内臓破裂などを起こしてしまう危険性を感じたのです。ものすごいショックでした。

小野　私自身も若い時に2度、足場から転落した経験があります。身構える余裕があり、幸い大事には至らなかったのですが、墜落や転落の衝撃のすさまじさは、その時の体験でわかっています。身構えることができなかったら、きっと大怪我をしていたはずです。強烈な体験でした。

田村　素人の考えだと、ぶら下がるだけだから大したことはないし、安全だと思いますものね。

小野　人間は頭が重いから、落下すると頭から落ちるんです。安全帯は1・5㍍の長さがあり、腰に巻きますから、頭の位置で測るとおおむね腰から上の80㌢を足した2・3㍍を落下することになります。衝撃加重は1㌧に達します。しかも受け身など取れませんから、たとえ死ぬことはなくても打ち所が悪いと障害者になる危険性があるのです。

田村　着用していれば安全だという考えは間違っていますね。

小野　安全帯に関しては作業者、あるいは落ちる可能性のある人間の目線が大事だと思います。私どもＡＣＣＥＳＳでは、スローガンの一つに「もうよそう　ヒューマンエラーの他人事」というのを掲げているのですが、何事もヒューマンエラーの一言で片付けてはいけないのではないでしょうか。

田村　現在の安全帯は、1点支持ですね。外国には落下傘タイプというのでしょうか、リュックを背負うようなものがありますが、安全面ではどう違うのでしょうか。

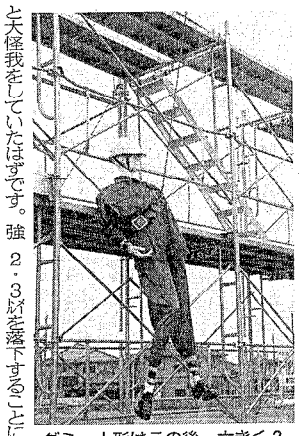
小野　ハーネストタイプと言いまして、5点支持のものがあります。欧米では一般的です。作業性が悪くなるという意見もあるでしょうが、命の尊さを考えたら採用を検討すべきでしょうね。安全性の面で言ったら5点支持のほうが良いのは言うまでもありません。

田村　「人や物の落ちない足場の普及をめざそう」が小野さんのスローガンですね。考えてみれば作業員の方がたは、サル回しのサルでもあるまいに、安全帯で縛られて作業しているようなものですし、技能を思う存分発揮するには違和感のある作業環境のような気がします。

小野　ハーネストタイプと言うのは、さらに足場板もフラットにして、隙間をなくすことをめざしているわけです。

田村　よく「ヒヤリ、ハッとをなくしましょう」というスローガンを目にしますが、ＡＣＣＥＳＳがめざしていることは理想で終わらせるのではなく、ぜひとも実現してほしいですね。

小野　現場では、優秀な職人が高所で持てる技量を如何なく発揮できないと意味がありません。極端ですが、片手片足やサーカスまがいの状態で良い仕事ができるはずはないのです。仮設安全大会では大会スローガンを「見える安全　感じる安心」としました。良い仕事をするためには安心して作業できる環境が大事だということです。目で安全を確認できる足場を提供し、安心感を持って作業をしようという思いを込めました。



ダミー人形はこの後、大きく２回バウンドして腰から２つに完全に折れ曲がった

小野　先ほどの「ヒューマンエラーの他人事」につながるのですが、初めに安全帯ありきではなく、あくまで安全帯は副次的な存在で、安全帯に頼らなくても安心して作業ができる足場を提供しようということなのです。安全衛生規則では、手すりは1本で良しとされています。しかし、規定を守っていても墜落・転落や飛来・落下は後を絶ちません。もちろん、作業員への安全に対する教育と意識付けは大事ですし、効果はそれなりに上がっていると思います。だけど、作業員の高齢化や経験不足の新規従事者などを考えると、教育だけでは事故の削減に限界があるのも事実です。ですからＡＣＣＥＳＳでは、ハード面では手すりを2本にし、つま先板を完備して墜落・転落を防ぎ、ネットも装備して飛来・落下が起きないようにしようと大怪我をしていたはずです。強烈な体験でした。

田村　素人の考えだと、ぶら下がるだけだから大したことはないし、安全だと思いますものね。

小野　人間は頭が重いから、落下すると頭から落ちるんです。安全帯は1・5㍍の長さがあり、腰に巻きますから、頭の位置で測るとおおむね腰から上の80㌢を足した2・3㍍を落下することになります。衝撃加重は1㌧に達します。しかも受け身など取れませんから、たとえ死ぬことはなくても打ち所が悪いと障害者になる危険性があるのです。

田村　着用していれば安全だという考えは間違っていますね。

小野　安全帯に関しては作業者、あるいは落ちる可能性のある人間の目線が大事だと思います。私どもＡＣＣＥＳＳでは、スローガンの一つに「もうよそう　ヒューマンエラーの他人事」というのを掲げているのですが、何事もヒューマンエラーの一言で片付けてはいけないのではないでしょうか。

田村　現在の安全帯は、1点支持ですね。外国には落下傘タイプというのでしょうか、リュックを背負うようなものがありますが、安全面ではどう違うのでしょうか。

小野　ハーネストタイプと言いまして、5点支持のものがあります。欧米では一般的です。作業性が悪くなるという意見もあるでしょうが、命の尊さを考えたら採用を検討すべきでしょうね。安全性の面で言ったら5点支持のほうが良いのは言うまでもありません。

田村　「人や物の落ちない足場の普及をめざそう」が小野さんのスローガンですね。考えてみれば作業員の方がたは、サル回しのサルでもあるまいに、安全帯で縛られて作業しているようなものですし、技能を思う存分発揮するには違和感のある作業環境のような気がします。

小野　ハーネストタイプと言うのは、さらに足場板もフラットにして、隙間をなくすことをめざしているわけです。

田村　よく「ヒヤリ、ハッとをなくしましょう」というスローガンを目にしますが、ＡＣＣＥＳＳがめざしていることは理想で終わらせるのではなく、ぜひとも実現してほしいですね。

小野　現場では、優秀な職人が高所で持てる技量を如何なく発揮できないと意味がありません。極端ですが、片手片足やサーカスまがいの状態で良い仕事ができるはずはないのです。仮設安全大会では大会スローガンを「見える安全　感じる安心」としました。良い仕事をするためには安心して作業できる環境が大事だということです。目で安全を確認できる足場を提供し、安心感を持って作業をしようという思いを込めました。

第１回全国仮設安全大会の製品展示会場で安全な足場を体感する２人

田村氏　安全ベルトも万全ではない

安全点検で死亡事故は半減　小野氏

田村　いいものをつくるための基礎が足場だということですよね。ダム建設では堤体が岩盤しているから上部が大丈夫なわけで、土木技術者たちはその作業に燃えます。横に張り出した「岩盤」が足場と言うこともできます。

国鉄総裁を務められた仁杉巌さんから「線路がきちんとできていなかったら列車はスピードを上げられない。保線などもそうだが、日立たないところの仕事が、実は快適な列車運行を支えているのだ」というお話を聞いたことがあります。最近は建設構造物の品質確保が声高に言われているようですが、そのためにも足場の果たす役割は重要だと実感しました。

小野　理想の足場を提供しようというのは、近い将来の目標です。実現すべくＡＣＣＥＳＳの組合員が一丸で取り組んでいきますが、実は併行して「今できることも全力で活動しようと」ということです。それはソフト面で、設計どおりにきちんと足場が組み立てられているかどうか安全点検を自主的に、一生懸命に行っているところです。というのも、本体構造物には部位ごとに検査がありますが、足場には検査制度がないのです。足場に不備があって事故につながるなんて話になりません。できることを実践しながら、理想の足場も追求するというのが現在のわれわれＡＣＣＥＳＳの活動ということになります。安全点検で死亡事故は半減すると自信をもって言えます。

田村　安全確保に妥協をしない小野さんの姿勢には感銘を覚えます。足場をつくった人も運んだ人も、さらに組み立てた人も等しく本体をつくった人と同列であり、そうした方々の労苦が構造物として結実し、一般の憧憬を引き寄せる存在となります。足場が黒衣（くろこ）的な存在でもいい、だけど冷遇されている面が少しでもあるなら、私は「存在を認めなさい」と声を大にしていいたい。

小野　心強い発言をありがとうございます。足場の「応援団長」を任じていただいたところで本日の終了とさせていただきます。ありがとうございました。

たむら・よしこ　1955年京都府立大卒、都新聞報道記者を経て、文筆活動に入る。現在は、日本ペンクラブ・日本文芸家協会会員。社団法人建設コンサルタンツ協会理事、社団法人日本河川協会理事をつとめる。主な著作に、『京都インクライン物語』『北海道浪漫鉄道』などがある

当組合の小野辰雄理事長は9日、本部会議室で記者会見し、2002年の活動方針や新年の抱負などを表明しました。

この中で小野理事長は02年のスローガンを「見える安全　感じる安心」とし、今年度から全面展開している足場の現場安全点検を拡大・充実させ、安全を無事故無災害という形で見えるようにして、「徹底して不安をなくしていく。また、より川上段階での取り組みとして経年機材や製品の検収点検なども順次、実施していく」と力強く述べました。

スローガンに沿って、安全点検はソフト、ハード両面の取り組みを推進するとし、「今できることを精力的に実践する。場の安全装備を開発、普及していきたい」など抱負を述べました。

また、活動全般を通じて「02年は、合理化された安全エンジニアリング月1日―12月31日の期間を対象に調査、集計しました」のが305件、さらに「改善依頼を行い再検査を実施することとした」のが83件となっています。

当組合では01年度は全国で2500件の点検をめざしていますが、02年度は倍増の5000件を目標に実施していく方針です。

※ 小野理事長が新春会見 ※

スローガン「見える安全　感じる安心」を全面展開

現場安全点検を定着化

例えば、現状でも現場点検するだけで足場など仮設に起因する死亡災害は半減できる、と自信をもっていえる」「人や物が落ちない、落とさない足場を構築していく。完成は先になるだろうが、足場の確立をめざす。そしてこの第1歩をしるす年になる」と語り、創立3年目を迎える02年度に向け、一層の結束と一丸となった安全点検活動を展開していくことなども強調しました。

02年度五千件を点検

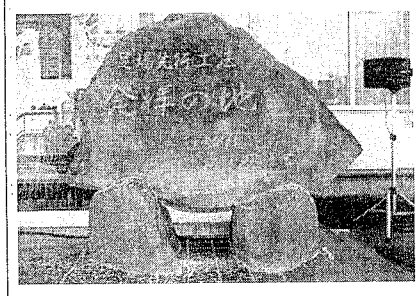
同組合は9日までに、仮設安全監理検査（現場点検）の活動状況をまとめました。2001年4月1日―12月31日の期間で「02年は、合理化された安全エンジニアリング月1日―12月31日の期間を対象に調査、集計しました」のが305件、さらに「改善依頼を行い再検査を実施することとした」のが83件となっています。

実施した現場の内訳は建築838件、土木70件、プラント・造船・その他134件。このうち「適正であった」のは1293件、「改善依頼を行いその場で改善された」のが305件、さらに「改善依頼を行い再検査を実施することとした」のが83件となっています。

当組合では01年度は全国で2500件の点検をめざしていますが、02年度は倍増の5000件を目標に実施していく方針です。

支部ごとの月別延べ実施現場数

支部	北海道	東北	関東	北信越	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
4月	7	6	13	1	3	11	1	0	0	42
5月	4	3	12	3	1	4	0	0	8	35
6月	2	3	19	0	0	2	0	5	3	34
7月	31	6	43	8	25	16	2	11	7	149
8月	22	18	82	7	14	19	5	13	31	211
9月	16	8	82	15	29	32	3	35	22	242
10月	11	47	240	24	19	54	3	23	48	469
11月	20	47	202	18	23	51	20	22	51	454
12月	集計中	集計中	集計中	集計中	集計中	集計中	2	集計中	集計中	45
合計	113	136	693	76	132	214	36	109	170	1661



建災防新潟県支部十日町分会ら

足場先行工法の記念碑建立

安全への意志石碑に託す

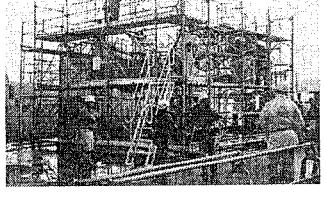
建設業労働災害防止協会新潟県支部十日町分会（村山政文分会長）と十日町地区木造家屋建築等安全対策連絡協議会（霜木健治郎会長）は、十日町建築組合の創立50周年の記念行事に併せ、「足場先行工法　発祥の地」の石碑を、坂口力厚生労働大臣の揮毫により建立しました。

十日町市は北陸地方有数の豪雪地帯ですが、古くから木造建築が数多く施工されています。また、施工時の災害防止に関心が高く、効果的といわれる「足場先行工法発祥の地」とされ、同工法も普及しているなど、木建業死亡災害ゼロ3000日も9月の時点で達成しています。

足場先行工法は、当初は単管足場からスタートし、簡易ビテ足場、ビテ足場と変遷し、その間も行政と建築業者が一体となって協力していました。十日町地区では昭和40年代から、建築業者の間で建て方の前に周囲の足場を先行して組み立てる「足場先行措置による木造建築工事」を実施、昭和50年代には行政の働きかけにより、建設業労働災害防止協会新潟県支部十日町分会、十日町地区の木造家屋建築工事等安全対策協議会などを通じ、同工法が普及することとなりました。

記念碑の除幕式には、同組合の関係者、大島厚夫十日町労働基準監督署長、若井若夫新潟労働局安全衛生課長らが列席しました。今後も5000日、1万日の終了とさせていただきます。ありがとうございました。

手すり先行足場モデル現場　安全監理点検



第２回安全監理者研修

北信越支部

39人が実務訓練　機材実演見学も

北信越支部は昨年11月27日、長岡市北陽工業団地のフジ仮設長岡営業所工場構内で、第2回仮設安全監理者実務研修会を開催しました。

開会にあたり、吉川副支部長から、「仮設安全監理検査の重要性を強調する開会の辞」があり、次いで太田支部長から、「当支部の斡旋事業・安全事業に対する取組状況およびモデル工事の安全点検の実施状況等について説明し、仮設災害撲滅をめざして仮設安全監理検査の積極的な実施をお願いする」旨のあいさつの後、新たに新潟支所長に就任した本間支所長があいさつをしました。

引き続いて、土田当支部安全監理室長より安全監理検査実施マニュアル（仮設災害統計、検査実績、研修用仮設足場および検査実施上の留意点等）を説明後、仮設安全監理者39名が仮設足場の組立図、点検表を用いて実務訓練を実施、その結果講評を行い、受講者へ支部長から修了証を交付し、最後にフジ仮設長岡営業所の柳所長が閉会の辞を述べて閉会しました。

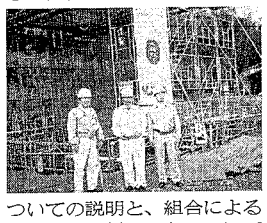
また、実務訓練会場に併設した展示会場には、3社が新しいタイプの安全仮設機材を展示し、実務訓練に参加した仮設安全監理者一同、その組み立て・解体実技の実演を見学しました。

展示された安全仮設機材は、日綜産業のデルタＦ―1シリーズ、Ｆ―1タワー等、アルインコのフリーステデ、セーフボード、マイティベース等、中央ビルト工業のスカイガードで、参加した仮設安全監理者の注目を集めました。

中国支部

当組合中国支部は昨年12月6日、モデル工事現場の安全監理点検を実施致しました。安全点検を実施した現場は、中国地方整備局発注のモデル工事6件（うち港湾空港部1件）のうち、広島県の福山工事事務所管轄の現場で、工事名は生口島道路高松川橋下部工事。工事場所は、西瀬戸自動車道（しまなみ海道）の生口島北ＩＣと生口島南ＩＣとつながる道路の工事現場です。

安全点検に先立って、まず福山工事事務所の工事を担当されている現地事務所を訪問し監督官に手すり先行足場について説明と、組合による安全点検を行うことについてご了解を得、施工業者の村田組の紹介を受けました。



また、現場事務所で村田組の金光所長から工事概要の説明があり、安全点検の対象は橋脚４基で、この基礎工事の段階で安全点検を実施しました。今回の安全点検は、金光所長ほか、係員２名と中国支部からは安全監理者の山本喜由氏（日綜産業）、稲森純二氏（住友金属建材）、鬼塚道宣安全室長代理の３人と合同で実施、組合の専用足場点検表にもとづいて橋脚４基の足場を点検しました。

また、今回現場で使用した手すり枠は住友金属建材のアルミビディガードで、メーカーとして製品の説明と取り付け状況の点検も併せて行い、検査結果については、検査実施報告書を金光所長へ提出しました。次回の安全点検についても金光所長と協議し、橋脚の足場が全部組み立てを完了する来たる１月25日に実施する予定です。

北信越支部

国土交通省と農林水産省は、足場からの墜落災害を防止する目的で今年度から直轄工事で「手すり先行足場モデル工事」を実施しています。このうち国土交通省北陸地方整備局発注工事については、管内の各工事事務所立ち会いのもとに、北信越支部所属の仮設安全監理者による安全点検が順次実施されていますが、港湾空港部関係のモデル工事としては全国初の安全点検が昨年11月20、21の両日、敦賀港湾工事事務所と伏木富山港湾工事事務所立ち会いのもとに実施されました。

このモデル工事は、敦賀港（鞠山北地区）防波堤本体・築造工事（東亜建設工業が施工）、伏木富山港北防波堤本体工事（水見土建が施工）の２件で、「仮設に起因する墜落・転落災害、崩壊・倒壊災害及び飛来・落下災害の防止」を重点に、当組合所定の「メーカー・機材別点検表」を使用して仮設機材の整備状況および仮設の設計監理・施工管理状況等を入念にチェックしました。

また、両工事とも「先行手すり枠および巾1,200㍉の建枠の使用により、足場の組立・解体等作業時における安全性・作業性に優れた足場」となっているほか、墜落災害および崩壊等災害防止対策として、ブレースと手すり、先行手すり枠とブレースを併せて設置されている足場には、安全点検を実施した仮設安全監理者一同、「正に安全モデル現場である」と感心しました。

東亜建設工業の現場代理人は、「先行手すり枠は、組み立てに多少手間は掛かるが安全性が高いので以前から使っている」「モデル工事でなくとも、先行手すり枠を使う予定にしており、先行手すり枠を使う時は強度上からも筋交いを入れる必要がある」と話されていました。また、氷見土建施工の工事では、安全点検実施後、発注者、施工者および仮設安全監理者合同で安全点検の実施結果と仮設災害の防止について検討会を開き、具体的な対策を検討し、さらに仮設災害防止対策の徹底を期することになりました。北陸地方整備局発注のモデル工事は6件（うち港湾空港部2件）で、当支部が安全点検を実施した工事は、今回の実施分を含め5件で、未実施の1件についても近く、発注機関、施工業者と日程調整の上で実施する予定です。

『日本の近代化遺産』田村喜子さんが出演

ＴＢＳ系　2月23日放映

2月23日（土曜日）の午後3時から4時半にかけて、ＴＢＳ系列で『日本の近代化遺産』という90分番組が放映されますが、その中で作家の田村喜子さんが出演します。田村さんには、当組合の全国仮設安全大会で総合コーディネーターを務めていただき、「土木の応援団長」としても名高い方です。

番組では、俳優の榎木孝明さんとモデルのはなさんが、日本各地に存在する近代化遺産を訪ね歩き、その中で田村さんが書籍に編んだ琵琶湖疏水も取り上げられ、それを2人に解説する個所が番組のスポットになります。